

I 実践

1 人権教育の目標

- (1) 人間尊重を基盤として、不合理な差別をなくそうとする態度を育てる。
- (2) 正しい見方や考え方、強い意志、豊かな心情をもった生徒を育て、励まし合い、助け合う人間関係を培う。

2 本校人権教育の努力点

- (1) 各教科の指導を通して、豊かな情操や科学的・合理的な見方・考え方を育て、差別や偏見をもたない生徒の育成に努める。
- (2) 道徳や特別活動を通して、思いやりの心や認め励まし合う豊かな人間関係を培い、人権尊重の精神を養う。
- (3) 啓発活動を推進し、人権尊重教育への理解を深める。

3 実践内容

(1) こころ豊かな体験学習

1年生は、総合的な学習の時間の一環として、「こころ豊かな体験学習」の際にも、福祉体験学習を取り入れている。今年度も日立市の知的障害者更生施設「ひまわり学園」を訪問した。

ひまわり学園では、体育の時間に参加させてもらい、レクをして交流を深めた。



(2) 人権に関する授業の実践

＜社会科から＞ ～3学年「公民」の授業から

人権の学習の導入として、身近な題材から人権を考えさせることが目標である。12のカードに書かれた「ちがい」について、まずは一人一人あっていいちがい、悪いちがいを考えさせ、クラス全体で発表しあい、さまざまな考え方に触れさせ、討論した。

人権を考えよう

ちがいのちがい

カード 1
女性は16歳で結婚できるが、男性は18歳にならないと結婚できない。

カード 2
Aさんの親は、妹には食事の後かたづけを言いつけるが、兄には言わない。

カード 3
女性専用車はあるが、男性専用車はない。

カード 4
野球部では、上級生はグラウンドの整備をしないが、下級生はいつも整備をしなければならない。

カード 5
Bさんの通う高校ではアルバイトが認められているが、Cさんの通う高校では禁止されている。

カード 6
イスラム教徒は豚肉を食べず、ヒンドゥー教徒は牛肉を食べない。

カード 7
外国人のDさんは、日本国籍をもっていないという理由でマンションの入居を断られた。

カード 8
あるバス会社の運転手募集の求人広告に「男性のみ」とあった。

カード 9
E町の町営バスは、中学生は有料だが、65歳以上の人は無料で乗れる。

カード 10
日本は選挙の投票に行かなくても罰せられないが、オーストラリアでは罰金をとられる。

カード 11
F市ではゴミを出すときに1つ100円の有料のゴミ袋を使わなくてはならないが、G町ではどんなゴミ袋を使ってもよい。

カード 12
大人はクレジットカードを使って買い物ができるが、中学生はクレジットカードを使うことができない。

(3) ピアサポート研修会

相談員の先生を講師として、好ましい人間関係作りを目標としてエクササイズを行った。友達相互による相談活動のための基本的なスキルの研修である。普段の何気ない場面を想定して、友達関係を円滑にするためのエクササイズである。



(4) 小中合同オリエンテーリングの実施

中里小中合同の行事として、午前中の4時間を利用して、隔年で実施している。中里小中学校の交流を深め、下の学年は上の学年を慕い、上の学年は下の学年の面倒を見るといごく当たり前の感情を育てていくことを目標にしている。



4 成果

道徳の授業を通しては、「人権」について生徒一人一人が考えることができた。

行事においては、他学年との協力や役割分担の必要性など、実体験のなかで感じることができ、それがいい伝統として残していくことができています。地域と密着した活動により、世代の違う相手に対して自然に思いやりの気持ちを持って接することができた。

毎日の学校生活のなかでは、お互いを認め合う機会を多く持つことができた。このことにより、自分と違う他者を理解し一人一人を大切にする心が育った。

Ⅱ 今後の課題

教科においても社会科では「人権」というものを考える場面において多様な考え方がふくらむよう配慮した。他教科においても、もっと人権教育を取り入れていきたい。小規模校ということで、限られた人間関係の中で生活している生徒たちに、さまざまな状況での問題を提起し、自分だったらと考えさせる機会を設け、より豊かな人間関係を築けるように手助けしていきたい。心の成長は、一朝一夕では目に見えてこないもので、長い目で見守りつつ計画的・継続的に道徳の時間などを使って指導を続けていきたい。